



茅ヶ崎市

低炭素まちづくり計画

～湘南の快適環境都市を目指して～



平成27年3月

茅ヶ崎市

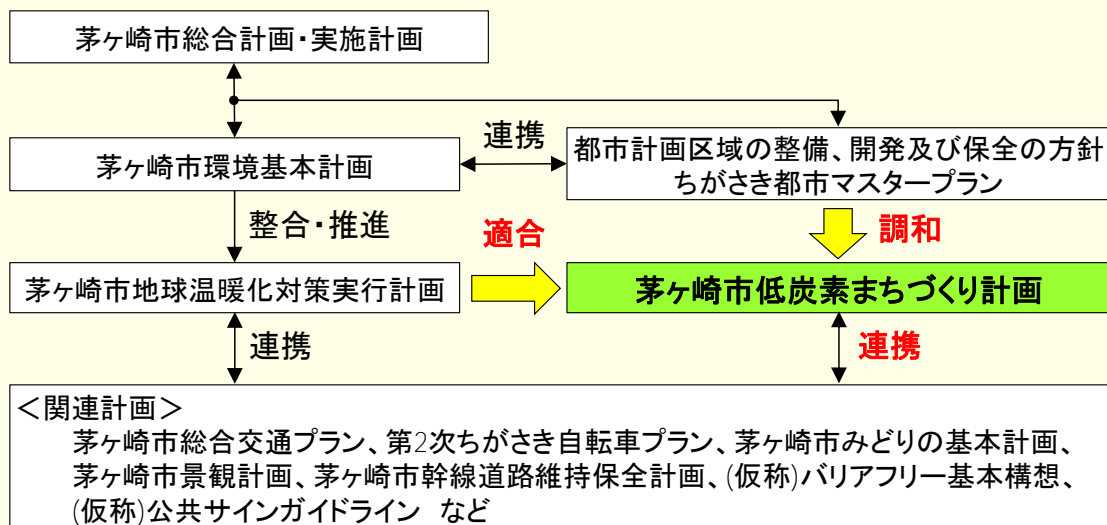


◆ 低炭素まちづくり計画とは

- 人口減少・少子化・高齢化の進行に対応し、都市活動に由来するCO₂排出量を抑制したまち、持続可能なまちづくりを目指す計画です。

～計画の位置付け～

- 『都市の低炭素化の促進に関する法律（以下、エコまち法）』に基づく計画です。
- 既定の『ちがさき都市マスタープラン』と調和し、『茅ヶ崎市地球温暖化対策実行計画』に適合した計画です。



■ 茅ヶ崎市低炭素まちづくり計画の位置付け

～計画の狙い～

- 少子・高齢化の進行への対応として、限られた財源の中で、まちづくりに関する施策・事業を効率的に推進していくことは、都市の低炭素化と同じ意味を持つと考えています。
- 低炭素まちづくりの取組は、便利で快適なまちづくり、行政サービス・都市経営の持続性・安定性につながります。

～計画の対象区域・集約拠点地域～

計画対象区域

計画対象区域は、エコまち法の規定を踏まえて市街化区域全域とします。



集約拠点地域

集約拠点地域とは、都市機能の集約を図る地域です。

『ちがさき都市マスタープラン』の位置付けから“茅ヶ崎駅周辺地区”、“辻堂駅西口周辺地区”、“浜見平地区”、“香川駅周辺地区”とします。

■ 茅ヶ崎市低炭素まちづくり計画の対象区域・集約拠点地域

◆ 都市構造とCO₂排出・吸収の関係

望ましい暮らしの実現につながる低炭素型都市構造

- 都市における社会経済・活動、市民の暮らしの中で、多くのエネルギーが消費されています。これらエネルギー消費に伴うCO₂排出が温暖化の要因となっています。
- 持続可能で快適な都市生活の実現のために『低炭素型都市構造』の形成が求められます。

【暮らしに伴うCO₂排出・吸収】

- ◇ 自動車・バスの移動に必要なガソリン消費による排出
- ◇ 居住や業務活動に必要な電力・熱利用による排出
- ◇ 樹木・みどりの成長による吸収



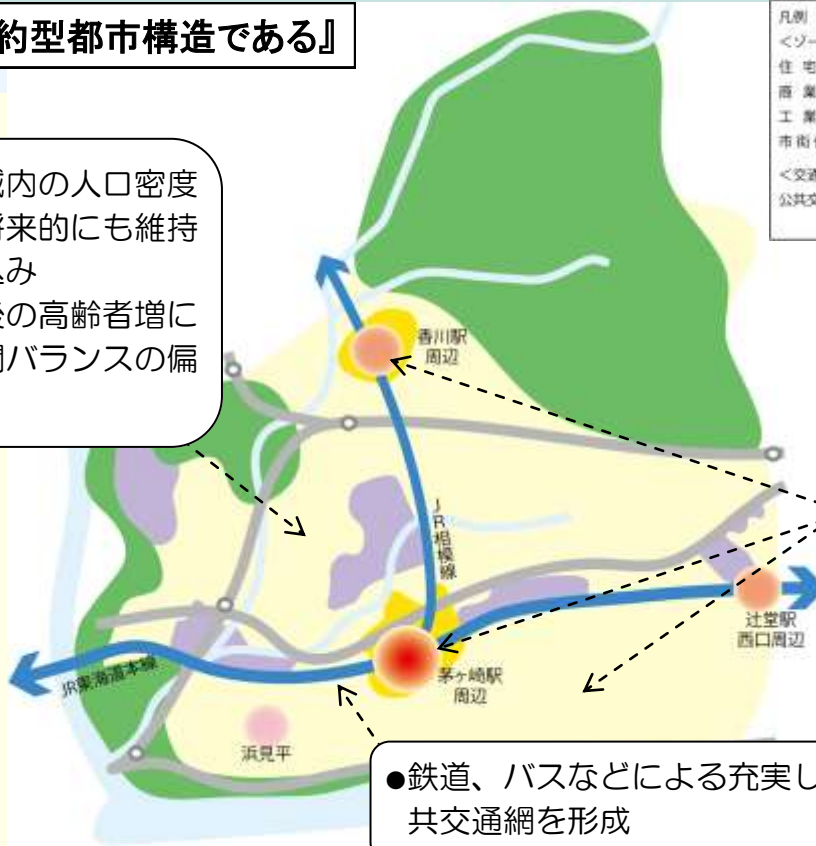
【望ましい都市基盤とは】

- ◆ 都市機能が拠点に集約されている
- ◆ 自動車に依存せずに移動ができる
- ◆ 高効率で自立分散的なエネルギー利用ができる
- ◆ みどりが豊か

◆ 本市の都市特性は ～都市構造に関する状況～

『本市は集約型都市構造である』

- 市街化区域内の人口密度が高く、将来的にも維持される見込み
- 一方、今後の高齢者増により世代間バランスの偏りが懸念



～移動実態に関する状況～

『本市は過度な自動車依存型ではない』

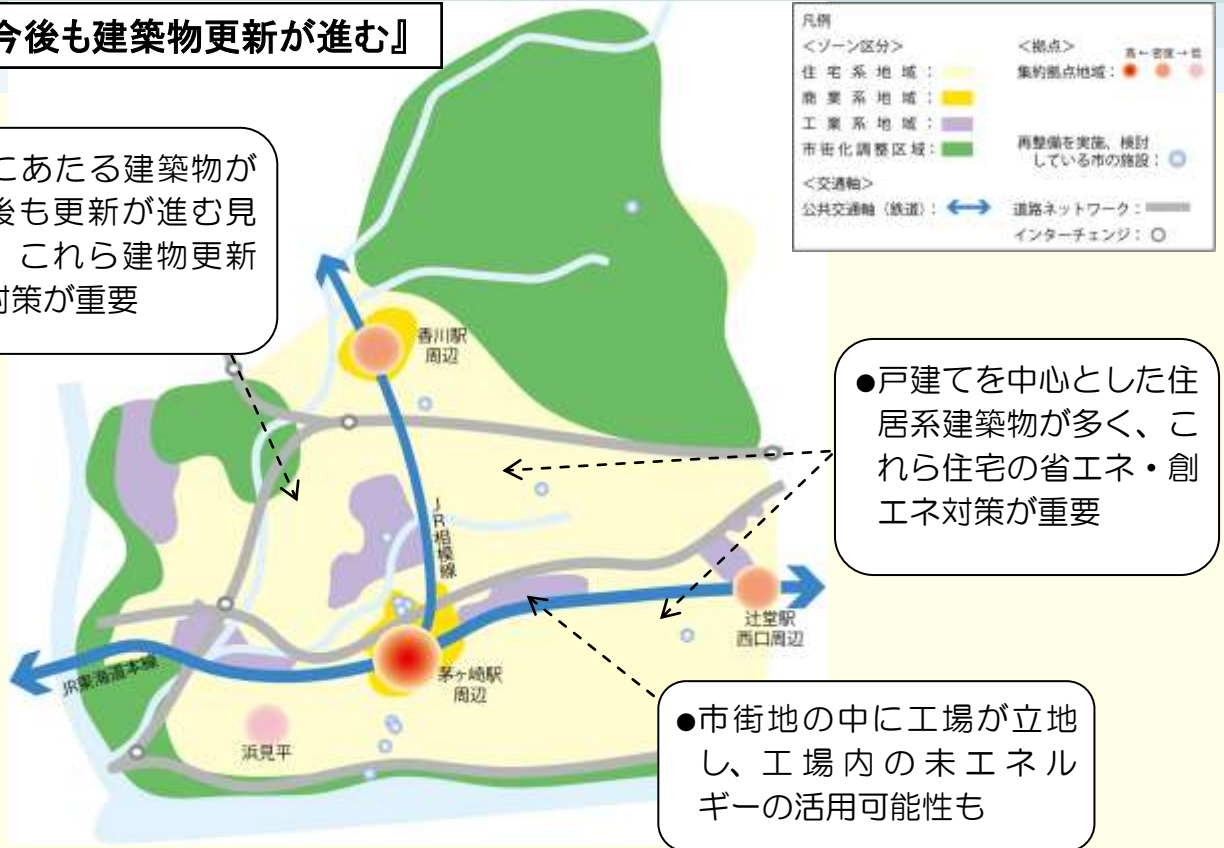
- 鉄道を中心に公共交通利用が多く、平地が多いことから自転車・徒歩も多い
- 一方、短距離や高齢者の自動車利用もあり、今後の高齢者増による自動車増加が懸念



～建築物に関する状況～

『本市は今後も建築物更新が進む』

●更新時期にあたる建築物が多く、今後も更新が進む見込みであり、これら建物更新に併せた対策が重要



●戸建てを中心とした住居系建築物が多く、これら住宅の省エネ・創エネ対策が重要

●市街地の中に工場が立地し、工場内の未エネルギーの活用可能性も

◆ CO₂排出実態と本計画の目標の考え方

【CO₂排出実態】

- CO₂は、都市における全ての社会経済活動から排出されています。本計画では、都市分野に関わる、運輸部門、民生家庭部門、民生業務部門を対象とします。
- 運輸部門については、本市に発着する通勤や私用等の乗用車から、現状で約11万 t CO₂/年が排出されています。将来的には人口減少の影響でCO₂も減る見込みですが、高齢者増加による私用での自動車利用が増加するため、高齢者をはじめとした誰もが自動車に依存しない都市づくりが必要です。
- 民生部門については、現状で家庭から約232万 t CO₂/年、業務から約228万 t CO₂/年が排出されています。将来的には人口減少の影響でCO₂も減る見込みですが、高齢者を中心とした単身世帯の増加によりエネルギー効率が低下するなど、CO₂が増える恐れもあるため、これらライフステージに応じた市街地環境創出が必要です。

【本計画の目標の考え方】

- 本計画の目標は『茅ヶ崎市地球温暖化対策実行計画』の“平成2年度（1990年度）比20%削減”を踏まえ、本計画の全て施策が進捗した場合の削減見込みとして、平成62年度（2050年度）を目標年として、将来趨勢比で運輸部門で1.8%削減、民生部門で17%削減とします。
- 全ての施策が実現した場合の削減ポテンシャルとして試算しています。運輸部門では公共交通の利便性向上、民生部門では個々の建築物の低炭素化による削減が大きく寄与する結果となりました。

◆ 低炭素まちづくりの将来像、施策・事業、リーディングプロジェクト

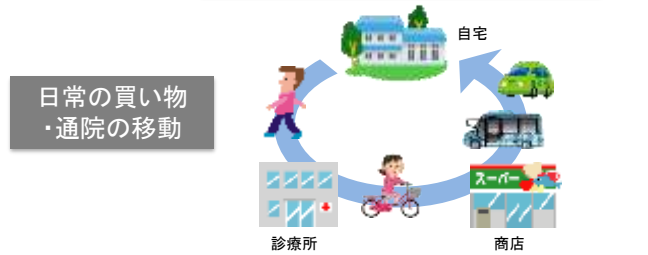
1 歩きやすく、自転車が利用しやすい健康的なまちで暮らす！

将来像

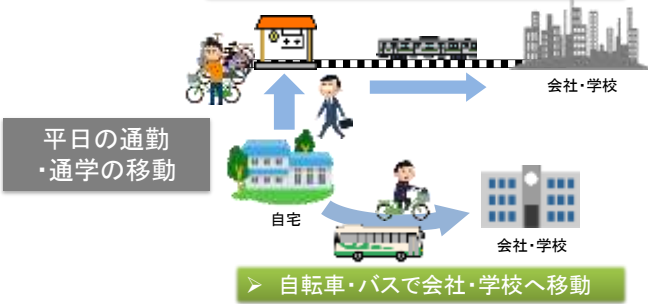
◆ 歩きやすく、自転車が利用しやすい健康的なまちを目指します。

<生活イメージ>

➢ 徒歩・自転車・バス・小型EVで、自宅から診療所・商店へ移動



➢ 徒歩・自転車・バスで最寄駅へ、最寄駅から鉄道で会社・学校へ移動



施策・事業

1) 行政・商業・業務等の集約した集約拠点地域

- ① 集約拠点地域の機能の充実
- ② 市街地再編の検討
- ③ 集約拠点地域への複合施設の立地誘導

2) 歩きやすい空間を有する集約拠点地域

- ① バリアフリー化の推進、公共サインの設置
- ② 区画道路・市街地内交通の改善
- ③ 歩行者の安全性確保

3) 利用しやすい公共交通機関

- ① 公共交通機関の利便性向上
- ② 交通広場の充実
- ③ コミュニティバス運行事業の充実

4) 歩行者・自転車が通行しやすい道路・駐輪施設

- ① 歩行空間の計画的整備
- ② 自転車走行空間・自転車駐輪場等の計画的整備
- ③ 自転車と公共交通機関の連携強化
- ④ 市内事業者、来訪者の自転車利用環境整備

5) 円滑な自動車交通とエコカー利用環境

- ① エコカー利用環境整備
- ② 道路整備等による渋滞解消
- ③ 駐車場の適切な配置
- ④ 中心市街地への自動車流入抑制
- ⑤ モビリティ・マネジメント

リーディングプロジェクト 将来像 1-① 自動車走行空間整備モデル プロジェクト

◆ 平地が多いこともあり自転車が多くの状況ですが、自転車利用者にとって、車道通行の難しさや、歩行者との接触の危険が懸念されています。



◆ これまでの自転車道・自転車レーンの設置、通行区分の明示などの取組を、既存の道路の維持・保全と合わせ、つながり（ネットワーク）を意識しながらより一層推進していきます。



リーディングプロジェクト 将来像 1-② コミュニティバスのサービス充実 プロジェクト

- ◆ 本市は、鉄道、民間バス事業を補完するコミュニティバスが、地域の身近な公共交通利用を担っています。
- ◆ 将来自家用車に依存しないために、必要な社会基盤として位置付けることができます。そのサービス対象を広げ、利用しやすさの向上を検討していきます。

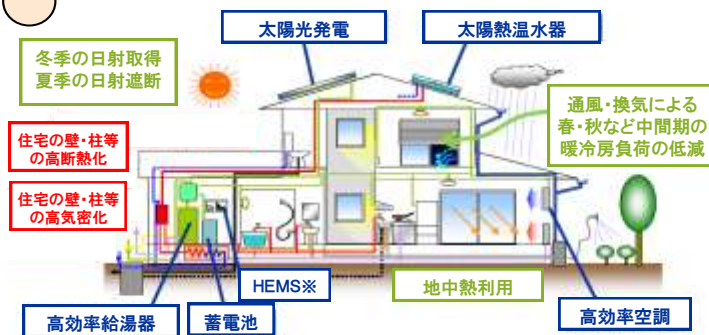
2 高機能で環境負荷が少ないまちで暮らす！

将来像

- ◆ 高機能で環境負荷が少ないまちを目指します。
〈生活イメージ〉

省エネ住宅のメリット：

- ・ 光熱費がお得になる！
- ・ エネルギーの見える化で節電意識も高まる！
- ・ 家の中が夏涼しく、冬暖かくなり、年間の温度差が小さくなるので快適に過ごせる！
- ・ 環境に配慮した生活ができる！



※HEMS: Home Energy Management System の略で、電力消費と発電・蓄電設備をリアルタイムで統合的に管理し、快適さを保ちつつ節電を行う家庭エネルギー管理システム

施策・事業

1) 省・創・蓄エネルギー機能の高い建築物

- ① 低炭素建築物の促進
- ② 省・創・蓄エネルギー機器の導入支援

2) 省・創・蓄エネルギー機能の高い街区・地区

- ① 公共事業、施設における省・創・蓄エネルギーへの配慮
- ② 街区・地区レベルの「(仮)低炭素な暮らしのススメ」の作成
- ③ 再生可能エネルギー(太陽光)、未利用エネルギーの利用促進

リーディングプロジェクト 将来像²-① こころの低炭素化 プロジェクト

- ◆ 環境への負荷が少ない建築物や街区での暮らしは、快適な生活環境創出につながり、また、経済的にもメリットが大きいものです。近年、太陽光パネルが設置されている建築物も多く目にするようになってきました。
- ◆ なるべく高い環境性能を有する住まいで暮らすようにし、そして、そのような高機能な住まいから出掛けるときに自家用車よりも、徒歩や自転車、公共交通を選択する暮らしへと、気持ち、こころの低炭素化を促進します。

【具体的な内容(代表例)】

- ◇ 要素技術の適用方法や各種支援制度、本市での先進的な取組事例をとりまとめ、個々の建築物の低炭素化に係る情報、各交通手段の環境性能・経済性、みどりの景観改善・冷却効果などの考え方をとりまとめて、低炭素型ライフスタイルを提案する「(仮)低炭素な暮らしのススメ」を作成します。



3 「みどり豊かで外出したくなるまちで暮らす！」

将来像

◆みどり豊かで外出したくなるまちを目指します。

<生活イメージ>



中央公園の緑陰



みどり豊かな住宅地

施策・事業

1) 歴史を感じ、親しまれるみどり

- ① 残存するみどりの保全
- ② 残存するみどりの維持管理の充実

2) まちを彩るみどり

- ① 公共施設における緑化の推進
- ② 民有地の緑化の推進
- ③ 緑陰歩行空間、憩いの空間の整備
- ④ オープンスペースを活かした緑地の創出

リーディングプロジェクト 将来像 3-① みんなの大切なみどりをまもる プロジェクト

◆急激な人口増加、宅地化が進んだ本市は、公園等の空間が少ないと感じている方が多くなっています。現在、残っている茅ヶ崎らしさを感じるみどりは、地域の多くの方が親しみを感じているのではないでしょうか。

◆公共施設である公園、緑地については、将来的な存続が担保されていますが、民有地の親しまれているみどりについては土地利用転換の可能性がある中で、市、地域、所有者の連携による存続のための維持管理手法や地域の中、都市の中でのあり方の検討を進めます。



リーディングプロジェクト 将来像 3-② みんなでみどりを増やす プロジェクト

◆市としては新たなみどり空間の創出に着手に取り組んでおりますが、本市の市街化区域には未利用地が少なく、膨大な事業費を要することなど、難しい面もあります。まちで、いわゆる立派な庭や、鉢植えも含めて多くみどりがある建築物などを茅ヶ崎らしいと感じませんか。

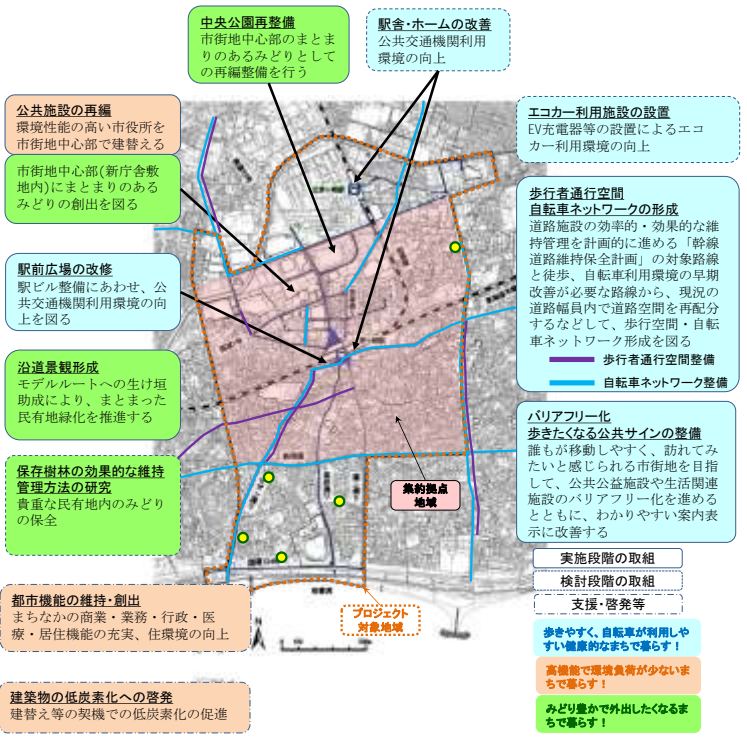
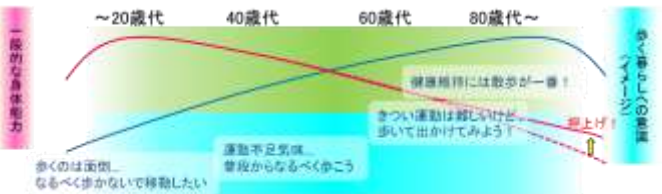
◆市街化区域内の道路や施設等の公共空間内において、緑陰空間や休憩ができるみどりの配置を進めます。さらに、最も多い民有地内にもさまざまな形でみどりが存在するように、緑化を促進します。



総合的リーディングプロジェクト 将来像 1 2 3 20年後、もっと歩きやすくなるためのまち改善プロジェクト

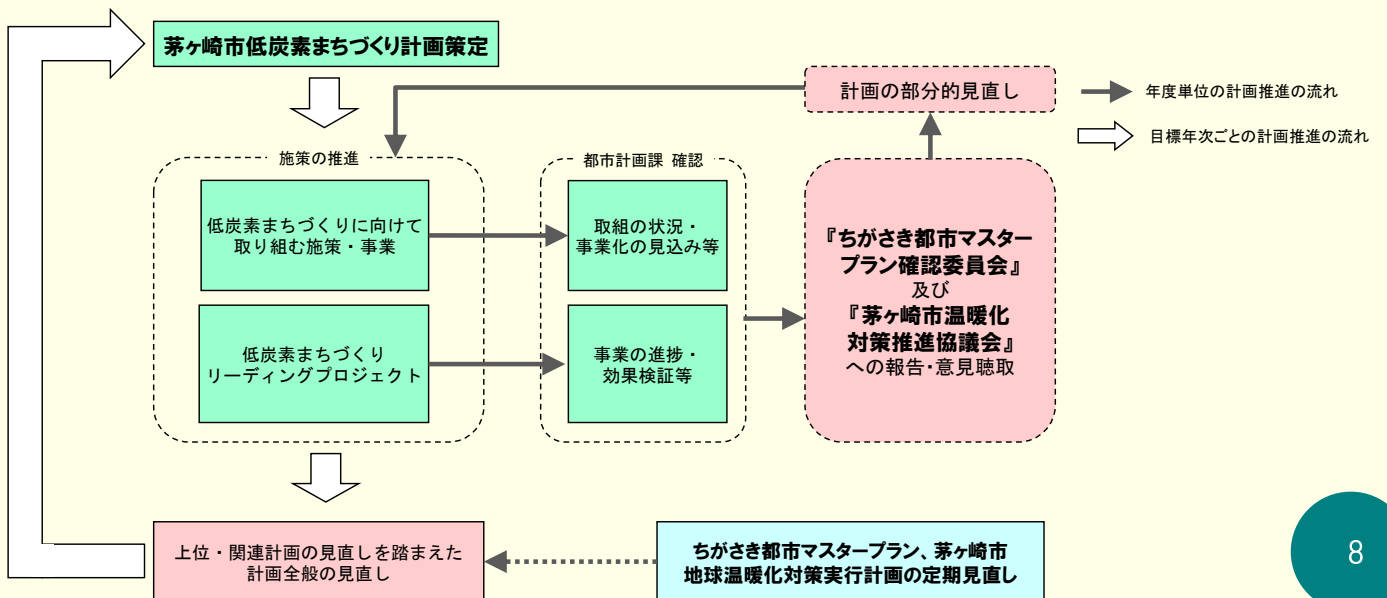
◆今から20年の年を重ねたら、暮らし中で歩くことについて、どのような意識を持たれるでしょうか？
歩くことが今よりも重要になっている気がしませんか？

◆都市の機能が集積している茅ヶ崎駅周辺をモデルに、歩きやすく、歩きたくなるまちに向けたさまざまな視点をパッケージ化して、今から改善に取り組んでいきます。



◆ 計画の進行管理・見直し

- 当面の目標期間としては、概ね10年後の平成37年とし、平成30年の「ちがさき都市マスタープラン」の見直しの際に進捗確認を行います。長期間を要する施策・事業は、平成62年度（2050年）を見据えて、進捗確認、検証を行いながら施策・事業の実現を推進していきます。
- 計画の実効性を高め、本計画に位置付けている施策・事業を着実に遂行するために、PDCAサイクルに基づくマネジメントを実施します。進行管理は、主に、茅ヶ崎市地球温暖化対策推進協議会、ちがさき都市マスタープラン確認委員会への報告、意見の反映を単年度ごとに行うこととします。





茅ヶ崎市低炭素まちづくり計画
～湘南の快適環境都市を目指して～
平成27年(2015年)3月発行 (500部発行)
発行・編集 茅ヶ崎市都市部都市計画課